

去る1月1日に起きた石川県能登半島地震により、被災された皆さまに衷心からお見舞い申し上げます。

当会は石川県能登町で約1カ月間にわたってモバイルファーマシーを運用してきました。第1陣から第7陣までの活動に携わったのは、当会会員に横浜薬科大学教員、県薬剤師会会員、病院薬剤師を加えた延べ28人に上ります。現地での支援は関係機関の皆さまの高

い志なくして実現しなかったと感じています。

町内の9薬局ほぼ全てが機能停止に陥り、私どもは宇出津総合病院前の薬局駐車場にモバイルファーマシーを調剤などの活動拠点として構え、4人体制で臨みました。

第4陣ごろまでは「災害処方箋」に基づいて処方にあたり、以降は避難所などの感染症対策に取り組みました。調剤といった薬局

としての機能を果たせたことは何より、モバイルファーマシーの存在自体が被災された皆さまに安心感を与えたと聞いています。

一方、交通アクセスが限られた地域への災害対応の難しさは痛感しました。朝に通れた道が夜は土砂崩れで使えない。刻々と変化する状況にマニュアルは全く通用しません。

神奈川でも首都直下地震の切迫性が指摘され、発生

すればインフラ被害は避けられないだけに、臨機応変な対応が現場には求められます。当会としても今回の活動の経験を生かし、支援体制や研修の強化に努めていくつもりです。

能登半島での活動に一区切りはつきましたが、これで終わりではありません。今後も横浜薬科大学さまや、横浜市さまといった関係機関と連携しながら支援に携わっていきます。

一般社団法人横浜市薬剤師会 坂本 悟 会長



薬局としての機能果たす



能登半島地震の支援に尽力した横浜市薬剤師会の坂本会長(左から3番目)をはじめとする役員